

24. オシヨロコマ *Salvelinus malma malma* (Walbaum) 図版 8

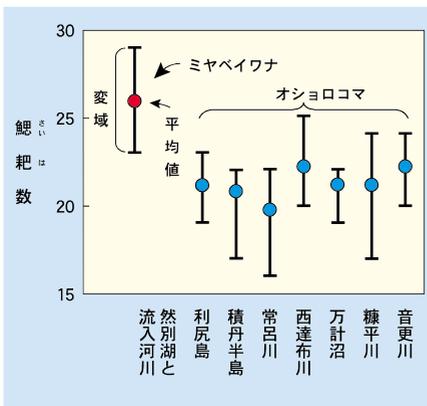
英名 Dolly Varden, Dolly Varden charr

露名 マリマ мальма

地方名(北海道) イワナ、カラフトイワナ、アカハラ

漢字 からふといわな 樺太岩魚、赤腹

アイヌ語名 オソルコマ



ミヤバイワナとオシヨロコマの鱗の数
(前川, 1977より作成)

【形態】 上あごの先端は下あごにかぶさり、口はやや下向き。成熟*した雄の大型個体では、下あごが上あごよりも長くなることもある。体の背部は褐色を帯びた緑青色で、白点がみられる。体側にはパーマーク*と朱紅色点まっかりが散在し、腹部は橙色から白色。真狩川の個体は腹部の赤みが特に強く、地元ではアカハラと呼ばれる。成熟した雄の体側や頭部は黒褐色を帯びる。降海型*は体側が銀白色になり、パーマークや朱紅色の斑点が

ふめりょう
不明瞭となり、腹部の色彩も不鮮明となる。北海道のオショロコマの多くは河川型*で、尾叉長*は30cmに満たない。アラスカ産の降海型は10年で50cmほどになる。

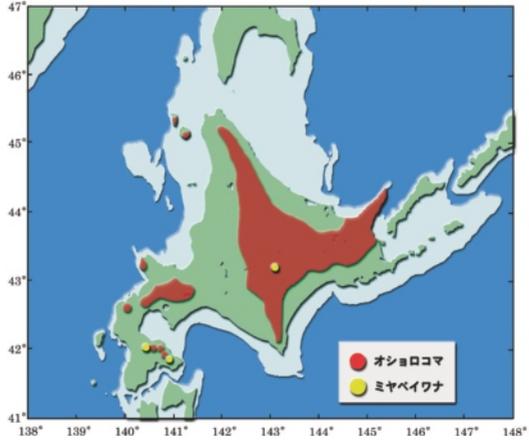
ミヤベイワナ *Salvelinus malma miyabei* Oshima はオショロコマの亜種*で、もともと^{しかりべつ}別湖とその流入河川だけに生息する固有亜種*。外見はオショロコマとほぼ同じだが、餌をこし

取るための^{さいは}鰓耙*がオショロコマよりも多い。この特徴は、湖で動物プランクトンを効率良く食うための適応と考えられている。かつては尾叉長60cmに達するミヤベイワナも記録されたが、最近ではこれほど大きなものはみられず、多くは30cm未満。

【生態】 オショロコマは太平洋北部地域に広く分布し、ユーラシア大陸側はカムチャツカ半島から朝鮮半島北部まで、アメリカ大陸側はアラスカ半島北部からカリフォルニア州まで、日本では北海道だけに生息する。大雪、日高山系などの山岳地帯、^{しべつ}標津川より北の北海道東部などに生息し、特に知床半島に多い。北海道の南西部や日本海側での分布は数河川に限られる。北海道では上流域を中心に生息するが、知床半島では河口から分布する。

礼文島の集団は移殖*によるもので、利尻島のものもその可能性がある。また、1975年から1987年にかけて北海道南部の数河川に、オショロコマとミヤベイワナが移殖された。

北海道では、降海型は知床半島でわずかに出現するだけである。北海道よりも北方では降海型の出現頻度が高く、これらは北海道沖にも回遊*し、まれに北海道内の川にも迷い込む。



北海道におけるオショロコマの分布

(久保、1993を改変)



降海型のオショロコマ (知床半島、ルシヤ川)

北海道での繁殖期は10～11月。雌は自分よりも大きな雄とつがいになり、砂れき*の川底に産卵する。産卵・放精の瞬間に小型の雄が産卵床*に侵入し、放精することもある。雌1個体の産卵数*は50～270粒。繁殖後も生き残って数年にわたり繁殖を繰り返す。

産卵の翌年の4月ごろに尾叉長2cmほどの稚魚*が川底から泳ぎ出る。その後、晩秋までに7cmほどに成長し、その1年後の秋には12cm、2年後には15cm、3年後には17cm、4年後には19cm、5年後には20cmほどになる。雄は1歳から、雌は2歳から性成熟*するものが現れる。昆虫類のほか、知床半島の河口域ではヨコエビ類*やサケの卵も食う。

ミヤベイワナには然別湖と流入河川とを行き来する降湖型*と、生涯を河川内で生活する河川残留型*の2タイプがみられる。雄の約3分の2と雌のほとんどが降湖型になる。降湖型は幼魚*期には河川内や河口付近で生活するが1～2歳以降、尾叉長約10cm以上になると湖で生活するようになり、15cmほどで銀毛*変態*する。湖での成長は速く、3歳で20cmを超え、4歳で23cm、5歳で25cmほどになる。降湖型の成熟時の尾叉長と年齢は、雄では21～42cmで4～7歳、雌では20～28cmで3～6歳である。河川残留型には雄の約3分の1とごく少数の雌が含まれる。河川残留型の成熟時の尾叉長と年齢は、雄では9～18cmで1～5歳、雌では11～18cmで2～5歳である。河川残留型や河川生活期の降湖型は主に昆虫類を食う。

ミヤベイワナの繁殖期は9月中旬から11月末までで、降湖型は8月上旬ごろから生まれた川へ遡上*し始める。繁殖は、降湖型のつがいに数個体の河川残留型雄が加わり行われる。雌は砂れき質の川底に産卵床をつくる。産卵数は降湖型で160～870粒、河川残留型で70～200粒である。繁殖後も生き残り、翌年再び繁殖に参加する個体もある。